

夏まきブロッコリーにおけるハイマダラノメイガの薬剤防除

佐々木善隆

ハイマダラノメイガの発生と夏まきブロッコリーでの防除効果を検討した。

8月と9月の100W高圧水銀灯での誘殺数は少なかった。10月には毎半旬6~17頭が誘殺された。11月にも1,2半旬は3頭と4頭誘殺された。ハクサイのは種床で時期別の発生を調べたが、7月下旬には株率10%の発生であったが、8月には上旬に50%,中旬と下旬に43~47%の株率で発生があり、9月上旬には11%の株率で発生した。

ブロッコリーは種床と本圃で異った日に isoxathion 乳剤の1000倍液を散布して防除効果を見た。8月5日まきのブロッコリーは種床で、は種10日後あるいは16日後に薬剤を散布した結果、移植直前で、は種10日後の散布区は心止りになる株はなかったが、幼虫、卵のある株が5%みられた。は種16日後の散布では、幼虫、卵のある株はなかったが心止りになる株が5%みられた。

8月29日には種した区は、7日後または12日後の1回散布では心止り株がみられ、また、幼虫、卵のある株が14~42%あった。は種7日と14日後または7日後と16日後の2回散布すると心止り株も幼虫、卵のある株もなかった。

9月3日植の本圃で定植9日後から7日間隔で3回散布した区は定植23日後に被害株はみられなかった。

10月1日に定植した区では、この時期成虫の発生はあったにもかかわらず、無散布区でも被害はみられなかった。